

# 二葉

## 東京支部だより

令和6年9月発行 第29号

題字：今井綾子(高女28回)



正副支部長挨拶

### どうしたら、『二葉生』と出会えるだろうか。

支部長 松村佳代 (高校31回生) 副支部長 木村早苗 (高校40回生)・栗林理恵 (高校31回生)

正副支部長で打ち合わせをしながら、若い「二葉生」と同窓会について

ざっくりばらんに話をしてみたいね、会ってみたいね、ということになりました。ならば、せっかくLINEで繋がった1990年以降卒業の若い同窓生40名程度を対象に、会う機会を作って参加を募ってみよう、ということになりました。

「二葉高校同窓生交流会に参加しませんか？ 関東にいる後輩先輩と食事を楽しみながら交流しませんか？ この春卒業して関東に来られた方も、勉強、仕事や子育てで忙しい方も、LINEに未登録の二葉卒業のご友人の方もお誘い合わせの上、ぜひご参加ください。諏訪の話、二葉の話で盛り上がりましょう」

……結果、申し込みはゼロでした。「集まりましょう」「飲み会をしましょう」という目的で声をかけたこの会は、「申し込まない理由」はいろいろあるとは思いますが「会ってみたい」という思いだけでは人は集まらない、という結果にな

りました。

「女子高と共学時代では別の同窓会運営が必要ではないか」「総会に参加しないのも、役員にされてしまうという気持ちからでは」「同窓会の意義は、同じ年の仲間が集まることだけが目的の人が多し。全体の組織はいらぬのかも」

一方、「ぜひに『同窓会組織』は必要！」と力を込める40回生もいます。「せっかく繋がって縦と横の縁を大切にしていきたい」と。彼女が提案するのは、「自分の今を共有できる、私に、僕に役に立つ講

演会」の開催。昔話ではなく、今の自分が欲している「モノ」や「コト」に直結するテーマを設定し、小講演会を開いたらどうか。きっと諸先輩たちの培ってきた経験は、今の私たちに役に立つはずで、また伝えられることを共有したいと思っ

ている先輩もいるに違いない。今迷っていることは何であるかを伝えたいと思っ

そんな話を聞きながら、人と人をも今昔も「二葉」が「何か」を繋いでいる、と思う日々です。

### 「大根坂サーモボトル」を作りました

「大根坂マーク」は諏訪市役所の建設課担当職員様のデザインでこの世に生まれ、大根坂の溝蓋を楽しく飾ることになりました。

この愛あふれる「大根坂マーク」の使用許可を市役所様からいただき、諏訪二葉高等学校同窓会東京支部にて「大根坂サーモボトル」のデザインにいたしました。

■ 4100円 (送料込み価格です)

■ 仕様

サイズ：Φ52×H150mm

容量：0.2リットル (200cc)

保温効力：(6時間) 45°C

保冷効力：(6時間) 12°C

ステンレス製、(パッキン) シリコンゴム

紺色 表に大根マーク、裏面にも大根坂の大根マークと、「諏訪二葉高等学校同窓会東京支部」の文字入り (画像参照)

■ お申し込み・お問い合わせ

こちらのQRコードからお申し込みください。お申し込み後、お振込み先をお知らせします。お振込み確認後、約2週間以内に発送いたします。(申し訳ございませんが日時指定はできません。予めご了承ください)



[suwafutaba.tokyo@gmail.com](mailto:suwafutaba.tokyo@gmail.com)

担当：松村佳代 (31回生・支部長)

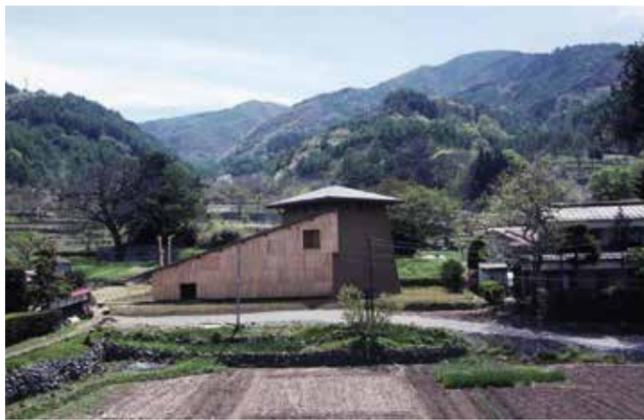
数に限りがございます。お早目のお申込みをお待ちしております。

# 自然を生かした建築の作り方

建築史家・建築家 藤森照信 先生

2024年5月18日総会では、藤森照信先生にご講演いただきました。茅野市をはじめ、各地にある作品について、多くの写真を見せていただきましたながら、その意図や思いをわかりやすく、楽しくお話しいただきました。最後の質疑応答では多くの参加者から質問が絶えませんでした。

誌面の都合上すべての写真をお見せできないのが残念ですが、内容をご紹介します。



写真①

## 神長官守矢史料館

茅野市の神長官守矢史料館（写真①）は初めて設計した建築です。守矢家が代々守ってきた古文書を収納する建物の相談を受けたのが始まりです。後方に見えるのが「守屋山」です。

柱が屋根に出ているのは、「御柱です」というと、なんとなく納得されますね。壁は割板というのですが、1m25cmにしかたつた。職人さんのすごく面白い技術で、こじながら割るんです。

建物の板は、関西にだけある古い技術で、焼杉といいますが（写真③）。表面を焼くことで炭化して、長持ちさせるって言う面白い技術で、下に火をつけると煙突効果で上に行き（写真②）、焼き終えると、炭の断熱性は強く、上も下も同じ厚さの炭になっている。今の建築で燃えしろ設計と言って、防火のための厚さを



写真②



写真③

が4センチ以上あると良い。火事のときも4センチよりさきについて酸素がなくて焼けないんです。それと同じ原理で上まできれいに焼けるとい技術です。

ほんとうにきれいな炭ですが、なぜか西日本にしかなく、それを私が持つてきて初めて使った。関西では焼杉は古くから知られていましたが、ちゃんとした数寄屋造りとか書院など京都の住宅に使われるものではなかった。農家の土壁を守るために使うもので、建材に上下の差があったんですね。

私はそんな事は知らないで使って、今は関西でもほとんど使うようになっていきますし、私が欧米で焼く実験を教えた海外で作る建物に使って、今は世界的に使われている面白い技術です。

## 焼杉ハウス

長野市に作った焼杉ハウスです（写真④）。真つ黒では住宅は陰気な感じがすると思っって白を混ぜようと白い漆喰とほぼ半々にしたら、気づくと、お葬式の幕みたいで。それで、白を少し縮めて貼っております。焼杉は関西で使われている



写真④



写真⑤

ままでは面白くないので、長く、厚くしています。ですから、ちゃんと炭の層が表面にある。今では日本でも世界でも建築家たちが使う材料になっております。右の上は茶室、手前は仏壇です。中は、一方だけ開く洞窟的な作り。洞窟は住まいの原型です。洞窟は、床、壁、天井が同じ材料ですが、床が一番コストがかかります。でも、「洞窟」ということで、床の材料で作りました。

## 細川護熙氏の不東庵工房

私は自然の素材をもつばら使うんですが、昔はうんと安かった。今は一番高い。人が手をかけるからです。自然素材だけで外観を作るのは価格、技術的にも大変です。そこで、何とか自然素材に合う工業製品を探しましたがこれです（写真⑤）。銅板は工業製品ですが、自然の力で変化する。これは細川護熙さんの別荘の工房ですが、銅板がギラギラ見えるのは最初の半年位で、緑青の味がある

感じになります。今は空気が悪くなって、きれいな緑というより黒っぽくはなりませんが、それでも良い色です。銅の柔らかさが自然と合うので、私はもつばら銅板を使うようにしています。

## 海外のゲストハウス

これはウィーンの南のゲストハウス（写真⑥）。ここでは焼杉の実験を学生たちが面白がって焼いてくれた。こういうことからヨーロッパでも焼杉は広まりました。

木材の支柱は、日本では必ず水がたまるところから腐るので心配したのですが、ここでは木が腐る条件、温度と湿度が日本と違うので、日本の10分の1ぐらいしか腐らない。実際50年経ったものが腐っていないんです。



写真⑥



写真⑧

写真⑦



写真⑩



写真⑫



写真⑬

## ニラハウス

自然を現代建築に取り込むのはうまくいきました。それで次に挑んだのは、自然物を取り込む、建築の緑化です。

私の建築の理想は、人間の肌から産毛が生えるように建築から植物を生みたいと言うものです。そこで、これは作家・芸術家の赤瀬川原平さんの家ですが、肌

の毛穴から生えるようにニラを植えました（写真⑪）。は夏に花が咲いて、こんな感じです（写真⑫）。

ただ、いろいろ問題が起きました。カラスが抜く、給水が難しい、花が咲かなくなる、そして茎が散らばった感じを見て、奥さんががらしない感じがすると。今は銅板にしています。メンテナンスが大変なのです。

次にうまくいっている例をご紹介します。

## 多治見市モザイクタイルミュージアム

多治見はタイルの生産が盛んで、それを地元で集めていたもののミュージアムです。

これは緑の部分だけ緑を植えているの



写真⑨



写真⑩

## ■芝棟について■

私は建築の歴史やっていたから、建築緑化が日本にもあることを知っていました。これは芝棟といって、わざわざ植えたものです（写真⑨）。諏訪にも昔はたくさんありました。明治の末の箱根の写真にもみられます。戦前までは一般的な屋根飾りでした。これは日本だけではなく、フランスのノルマンディ地方では、防寒のために屋根に土を載せ、草をはやしました（写真⑩）。





写真⑭



写真⑮

【参考（詳細はサイト検索等でご確認ください）】

■ 神長官守矢史料館

茅野市宮川389-1 Tel: 0266-73-7567

■ 多治見市モザイクタイルミュージアム

岐阜県多治見市笠原町2082-5 Tel: 0572-43-5101

■ ラコリーナ近江八幡

滋賀県近江八幡市北之庄町615-1 Tel: 0748-33-6666

■ 高過庵・低過庵・空飛ぶ泥舟体験

ちの旅「フジモリ茶室」プレミアムガイドで検索  
(一社) ちの観光まちづくり推進機構 TEL.0266-73-8550

■ 小泊Fuji

<https://kodomari-fuji.jp>

文責・栗林理恵（高校31回生）



1991年、神長官守矢資料館（茅野市）で建築家デビュー。建築に自然を取り込む美学を探求し、世界的に活躍。お母さま、2歳上のお姉さまも二葉高校同窓生。

小泊Fuji

富士見の田畑というところに昨年作った宿です。ここはとてもきれいなところで、雑草がないように手入れすることによっている地区です。

⑮。屋根には富士桜を植えています（写真⑮）。

細川護熙氏の茶室 一夜亭

細川護熙さんに1か月で作ってくれと言われて作ったものです。江戸時代、最高のもてなしは茶室を作って迎えることでした。細川さんはそれを知っていたのですね。このときの客はシラク大統領でした。クレインが入らないので、俳優座の舞

ラコリーナ近江八幡

こちらは近江八幡の神様の山近くで、この風景を壊したくないということで。こちらの会社は小豆などの原料を生産する農業部門を持っているため、管理して下さっています。（写真⑭）。こちらはカフェなどもあって人気があるようです。



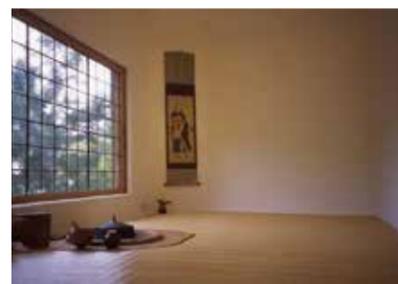
写真⑭



写真⑮



写真⑯



写真⑰

■ 茶室について ■

世界で、お茶を飲むだけの建築というのは茶室以外にありません。ヨーロッパでも中国でもお茶は飲みますが、専用の部屋で飲むわけではない。また、中国などでは伝統的には見晴らしの良いところや東屋、あるいは書齋で文人が飲むという伝統ですが、日本では違います。日本の茶室は利休が考え出したもの。重要なのは、狭い中で、外を見ない。そして、亭主が自分で点てること。特殊な空間です。

台を作る人の力を借りました（写真⑮）。これはお茶をしているところを撮った世界初の写真です（写真⑯）。普通外から撮らないですから。人のプロポジションに比べて建築が小さいのでマンガっぽいですね。お茶室は、正式には畳、床の間、障子があります。あまりこの伝統を守らないスタイルにしています。欧米では障子

があると日本的という意味で「素晴らしい」と言われますが、もうひとつ日本的なもの奥にあるもので踏み込んでもらいたい気持ちがあり、畳と障子は使いません（写真⑰）。シラク大統領は結局、イラク戦争が始まり、来日しませんでした。

高過庵・空飛ぶ泥舟

細川さんの茶室を作って、渡したくないと思った。それで、自分のをひとつ作ろうと、茅野に作ったのが高過庵です（写真⑱）。幼馴染がやってくれました。完成してみたら、思ったより高かった。これが評価されて、海外からも依頼が来るようになりました。

空飛ぶ泥舟（写真⑲）は、茅野市の企画で市民と一緒に作りました。これは影が真下に落ちるのが面白くて撮った写真です。

写真⑲



写真⑱



写真⑲

五庵

東京都から、オリンピックの間だけ、茶室を作ってほしいと言われて、作りました（写真⑳）。向こうに見えるのは隈研吾さんの国立競技場。和紙を使ったアクリル板を開けるとむこうが見える。これも今は茅野に移っています。

《コラム》先生の奥様・藤森美知子さんからのメール

藤森先生に講師をお願いするにあたり、連絡の窓口は奥様の美知子さんでした。今回の講演を終えてから、美知子さんからメールをいただきました。ぜひ皆様にご紹介したく、お許しをいただき、一部をご紹介します（一部改変・省略）。

昨日はお世話になりました。夫も帰宅して、「二葉の人たちは皆元気だなあ。楽しかった！」と申しておりました。出席者の中に21回の内田志づ子様のお名前を拝見しましたので、以下、個人的なことですが。私に関西出身ですが、大学から上京し、都立高校の教員を務め57歳で退職しました。最後の一年は都立小平高校でその時の校長が内田先生でした。最初に校長室に伺ったとき「高校一年の最初の席の隣が、藤森みちこさんという人だった」と親しみを入れて話されたことを昨日のように覚えています。

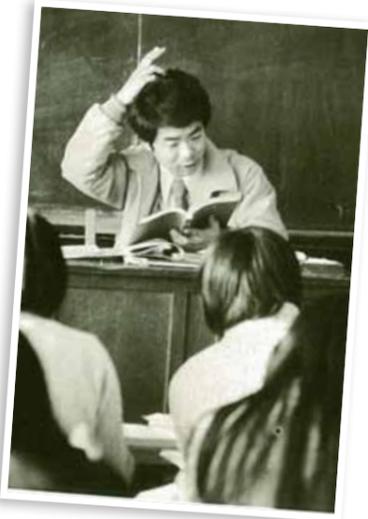
健康上の理由などで一年で退職することになり、内田先生には迷惑をおかけしてしまいました。私の退職直後、夫が対外的に忙しくなり、気がついたらマネージャー役です。機会がありましたら、内田先生によりしくお伝えください。

このメールを21回生内田志づづ子さんにお知らせしました。21回生内田志づづ子さんから「藤森美知子さんが藤森照信氏の奥様だったとは知りませんでした。優秀な英語の教師で早めにご退職なさろうとするのを必死で慰留した覚えがあります。結局退職されとても残念でしたが、こうしてご活躍なさっていたことを聞き、嬉しくなりました。」 これを機にお二人はご連絡をとられたそうです。うれしいご縁です。

# 卒業後の往復書簡 第三信 「征矢 鑑先生」

高校27回生 鈴木泉（河田）

「返信のために『天つ野』を読み返す機会を与えて頂き感謝します」と常に相手を思いやる言葉ばかりで、相変わらずの先生でした。



征矢先生近影  
2023年11月  
唯一のカラー写真!!

先生に近影をお願いしたところ、こんなメッセージと共に…

1975年3年5部担任時の  
征矢先生の授業スナップ

ご無沙汰しておりますが、お元氣でお変わりなくお過ごしでしょうか。なんと、五十年が瞬く間に過ぎました。

その間、母校は共学となり、古き良き階段の丸窓が印象的な木造校舎は建て替えられ、ステンドグラスが素敵な新しい校舎になりました。

数年前に、同窓会東京支部だより「二葉」への寄稿をお願いしようとお電話した際には、卒業以来ほとんど交流のない私ですのに、すぐに「おお、カワダか」と応じてくださり、感激したことを覚えております。思えば、先生との接点は、同じ学年の隣の担任で、一年の時に地理の授業を受け持っていたただけで、部活の顧問でもないのに、ずいぶん近しく親しく接していただいたように思います。当時、学校には若い男

性の先生といえは、中島森利先生（私は演劇部で顧問をしていたのでました）と征矢先生のみ。中島先生も人気がありました。若い独身男性は征矢先生おひとりだったので、ほのかな憧れを抱いていた二葉生が沢山いたことでしょうか。先生が双子であるということはよく知られた話でしたが、ファンだった友人は、大好きな征矢先生が双子だと聞いてそんな素敵なことがあっていいのか！と言つて、あきれたそうです。

当時の笑い話ですが、先生のお嫁さんは、足腰が丈夫で、しっかり農業ができないといけならしいよといううわさがありました。だからワタシらじゃあ無理だよね、という話です。寄稿していただいた後に、東京支部の総会に出席をお願いしたことがあります。大体五月の第三土曜日くらいなのですが、お電話しましたら、「その日は田植えだ」とバッ

サリ断られました。いかにも征矢先生らしいお返事でしたので、なんだか愉快な気持ちになりました。

私は結婚、子育てを経て十年少し前に起業。カフェを五年、雑貨屋を五年、今年から、レンタルスペースやワークショップの運営、駅ビルなどでイベントを企画し開催していますが、どれも順調とはとても言えません。寄稿していただいた際、私宛のメッセージもいただきましたが、何ものにもなれず、何もなし遂げていない自分が恥ずかしくもあり、しかし、何十年たっても、激励してくれる恩師がいることがうれしく誇らかったです。

現在、公立の女子高は稀ですが、私はなんとという幸せな時間を過ごせたのだろうと思っております。以前読

んだ本に、共学は男子に対して女同士が「ライバル」になる、女子高は「同士」になると。五十年たつてもよき友とおしゃべりしたり、旅をしたり。そんな友人の一人が、先生が顧問をされていた考古学クラブで、

発掘したり、土器を作らせてもらったりといろいろなことを自由にさせていただいたと聞きました。学校で過ごす時間を温かく見守ってくれる恩師がいてこそその貴重な時間だったなあと思います。

先生は、その後の長い時間を様々な学校でいろいろな生徒と接してこられたと思いますが、先生の教師生活の中で、二葉を面白く大切に思われているように寄稿の中で語られていて、とてもうれしく拝読しました。

先日は二十九回生の学年会にご出席されたとか。ぜひ、うちの学年会や同級会、東京支部総会などで、お目にかかりたいです。お誘いますので是非いらしてください。お会いできるのを楽しみにしております。

在の私たちの課題である。…生徒会に無関心だという事で、私が何をとがめられよう。…流れの中に埋没してもいい。その中で自己を生かす、ひいては生徒会を生かす方法を、みんなに考えてもらいたいのである。」(34号巻頭言)と、当時の生徒会活動に向き合う二葉生の姿勢に警鐘をならした。いま希薄になりつつある人間関係の織りなす「世情」にも、当てはまる苦言でもありますね。

貴女との記憶に残る接点は、卒業を前に進路をどうするか、という悩ましい問題に直面した折の事でした。(学年の進路係をしていた関係で)「どうするの?」とさりげなく聞いたことがあったね、「某大学の法学部、難しいが選択肢に入れてみたら」などと話をした事がありましたね。

そうこうするうち同期の五人が「学科は異なるが(同じ大学を)受験してみよう」という事になって、(大変なことをしてしまったと反省しながらも)しかし、かなり確率はいいと思っていたから、受験の結果が待ちどおしかった。結果的にはそれぞれが難関私大に合格、入学となったことを知って、ホッと息を吐き出したのも偽らざる心境だった。

そんな接点が絡み合って、貴女は多分法曹界で活躍しているか、或いは世界を股にかけて飛び回っているか、そんな姿を勝手に想像していたのです。

「天つ野35号」にイズミさんが寄稿した『一人よがりの青春論』野性的で瑞々しい文章からは(口早な息遣いが聞こえるようで)、あの当時のイズミさんそのものだったように思います。

そして、東京支部長としての成熟した挨拶文、「節目の時代に」(「支部だより24号」の巻頭言)に目をやると、五十年に喩々とする「大人への確実な歩み」を感じ取れました。

ほんの数分の電話でしたが、「苦難な事情を乗り越えて起業し、レンタルスペースやワークショップの運営などに没頭しておられる」由を伺い、長いトンネルを抜け出たような気持ちになりました。

卒業後半世紀、イズミさんならではの「生きざま」を全力で走っていることに、ようやく巡り合えて本当にうれしかった。少しは息抜きもしながら走ろうね。

朝起きると家中の戸障子を開け放つて外気を入れ、野良着に着替えて飯米田の水管理に出掛け、帰りに家添いの野菜畑で野菜を収穫し、天候に応じて草刈をする日々。

しかし、寄る年波には抗しがたく、田畑をどうしようか、「最後の選択」を迫られているのが現実です。教育委員の仲間の一人が「絵手紙」を(悩める私に)送ってくれました。

ヘタでいい/ヘタがいい/  
生きていくのも同じこと

どうぞ心身共にお健やかにおすごしください。お会いできる日が来るとうれいのですが……。

征矢 鑑

ヘタでいい ヘタがいい  
生きていくのも同じこと

令和2年3月5日付「支部だより」に寄稿の依頼を受け取ると前後して(支部長)鈴木泉さんから電話をいただき驚きました。聞き覚えのある声、「カワダ・イズミ」さんか!「支部だより24号」の鈴木支部長の顔写真が五十年の年輪を刻み込んで「ふくよかさ」を見せていたものですから、イズミさんとは知らず!

高校時代から大学時代までそのほとんどを無垢な男たちの世界に身を置いていた私。初任校の上田高校の定時制から二葉高校への転勤にはかなりの抵抗感がありました。

衣之渡の下宿からわき目もふらず女生徒の波をかき分けて(失礼)登校坂を一気に駆け上がったのです。

初めてのクラス担任。初々しい円らの瞳を持ったクラスの生徒たちとの出会いが、二葉の生活に溶け込む契機にもなりました。(隣のクラスにイズミさん)秋口にさしかかる頃、角間川ぞいの教員住宅に移り、(学校生活にも馴染み)風呂敷包を小脇に抱えて下駄ばきで校庭を突きり昇降口へ、上田時代のスタイルに戻りました。(下駄箱に靴下が入れたのはこの頃のこと)このことがあってから、身支度を整えることも「教師としての生活の一部」と恥じて、身支度に気を配ったことでした。一年後「尾玉団地」に二階建て(二戸)の教員住宅一棟が新築され、赴任二年目の野口先生と移り住みました。先生とは生徒会や卓球部の顧問をして、寝食を共にしての充実した一年間でした。(閉口したのは冬期間の雪、長い坂道を歩いての上り下り、時にはスキーで下ったことも)

翌春、最初のクラス(27回生・イズミさん)が卒業。野口先生の急な転勤に伴い先生のクラス担任(29回生)を引き継ぎました。同時に、慌ただしい時間の中で妻を迎えて新生活も始まりました。山の上の生活は中々大変でした。私の通勤、家内の買い出しと、一台の車を効率よく使い分けねばならなかったからです。

翌春、長女の誕生を機に岡村の教員住宅に移していただき、諏訪での放浪生活(?)から解放されました。(長女を背にして学校の温泉風呂を使わせていただいた思い出は忘れがたい)

イズミさん、卒業以来、半世紀という時空を超えて貴女の話しぶりや生徒会での活躍を思い出しながら、時折何かの拍子に「どうしているかな」と、気にはなっております。

手元に私が二葉に在職した七年間の「天つ野」(33~39号)がとってあり、改めて貴女が在学した三年間分を読み返してみました。

かなり忘却の彼方に消え去っていましたが、貴女のことばかりではなく、あの頃の個性豊かな生徒や職員の皆さんの事がほぼ蘇りました。

教室での学習内容はさておき、貴女が昭和49年度後期の生徒会長として「生徒会の現実」は、現



1975年3年6部 前列右から3番目が鈴木(河田)泉さん

# あの頃の 記憶を記録に とどめて

「現存している手拭いを送ります。一つは私が、もう一つは二葉祭に向けて生徒たちがデザインしたもの。残念ながら制作者、わからず。」美術の二木六徳先生の指導のもと、美術選択の生徒は二葉祭の手拭いをデザインする、という授業があり、その中から選ばれたものが、二葉祭の手拭いとして使われていました。また、二木先生は同窓会の記念品手拭いのデザインも多くされています。ここに先生からお預かりした作品を掲載します。

二木六徳先生からの一筆

この日か例えは「私」として  
二葉祭はこんな感じだ」という冊子が  
誕生したとすればそのぶんぶんぶん  
にこんな手拭いが漂えらるるを  
懐かしさも一層深まるかなと。



祝卒業 同窓会記念品 二木六徳先生



18回二葉祭 1977年



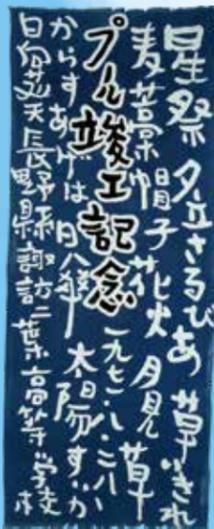
17回二葉祭 1976年



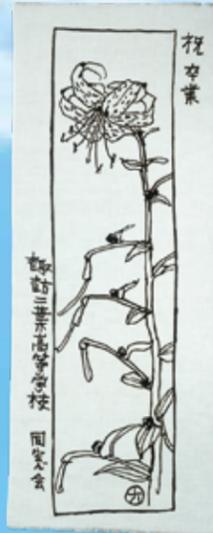
16回二葉祭 1975年



15回二葉祭 1974年



プール竣工記念 1971年  
二木六徳先生



祝卒業 同窓会記念品  
二木六徳先生



祝卒業 同窓会記念品  
二木六徳先生



19回二葉祭 1978年



20回二葉祭 1979年



創立70周年記念 二木六徳先生



原画 同窓会記念品 二木六徳先生



24回二葉祭 1983年



23回二葉祭 1982年



21回二葉祭 1980年



22回二葉祭 1981年



18回二葉祭 法被



19回二葉祭 法被

## 収支決算(令和5年4月1日～令和6年3月31日)および予算書(令和6年)

### ■本会計

#### (1)収入

年度	令和5年度	令和5年度		令和6年度
項目	予算額	収入額	摘要	予算額
前年度繰越金	2,326,045	2,326,045		2,014,763
維持費	600,000	588,000	294件	600,000
賛助会費	0	64,000	64件	70,000
寄付金等	0	197,494	「伊藤千代子映画上映会様」から128,494円のご寄附含む	0
雑収入	0	44,814	預金利子、支部日より掲載広告費、本部補助費、霧ヶ峰募金	0
同窓会基金より	0	0		0
収入合計	2,926,045	3,220,353		2,684,763

(単位：円)

#### (2)支出

年度	令和5年度	令和5年度		令和6年度
項目	予算額	支出額	摘要	予算額
総会関係	450,000	419,203	会場費、資料印刷、講師謝礼	577,000
会費	200,000	183,060	支部日より28号編集、印刷費、取材費	250,000
報送料・通信費	100,000	212,841	支部日より発送費	450,000
役員・事務局費	150,000	165,353	役員手当、事務局人件費、交通費	150,000
役員会議費	100,000	79,640	会議室使用料(全労連会館)、役員会資料印刷、会食補助	80,000
幹事会費	50,000	0	LINE販促費として通信費が増加するため幹事会は中止	0
弔慰金	10,000	0	弔電(保尊していたカードを使用)	10,000
コピー・通信費	10,000	97,417	上記以外の資料コピー代、LINE会員獲得のための通信費(月額5,500円)	130,000
事務用品費	2,000	0	事務用品	2,000
渉外	30,000	0	本部総会交通費	30,000
連合同窓会	70,000	12,622	東京同窓連・南信同窓連 関連費	70,000
雑費・予備費	50,000	35,454	維持費振込用紙印字代、振込手数料、物品保管経費等、霧ヶ峰募金	40,000
支出小計	1,222,000	1,205,590		1,789,000
次年度繰越金	1,704,045	2,014,763		895,763
支出合計	2,926,045	3,220,353		2,684,763

(単位：円)

### ■東京支部同窓会基金

年度	令和5年度	令和5年度		令和6年度
項目	予算額	収入額	摘要	予算額
前年度繰越金	3,031,000	3,031,000		3,032,202
引当金	0	0		0
受取利息	0	1,202		0
収入合計	3,031,000	3,032,202		3,032,202

(単位：円)

上記のとおりご報告いたします。令和6年4月13日 会計係 小林君江 峯島美緒  
上記は会計監査の結果、間違いありません。令和6年4月13日 会計監査 松木きよみ 松澤由美子

## 令和6年度 総会会計報告(令和6年5月18日)

### ■収入の部

項目	予算額	実行費	摘要
会費	700,000	693,000	¥7,000 × 99名
本部補助費	20,000	20,000	講師謝金、会場費、施設費等、資料作成、他
令和6年度本会計より	557,000	443,829	講師謝金、会場費、案内状作成、郵送費、資料作成他
収入合計	1,277,000	1,156,829	

(単位：円)

### ■支出の部

項目	予算額	実行費	摘要
講師謝礼	100,000	100,000	藤森照信氏(建築史家、建築家)
会場費	977,000	844,194	アルカディア市ヶ谷室料、飲食料、設備費他
諸経費(案内通知、名札シール等)	200,000	212,635	総会案内ハガキ代、傘寿祝い、名札等
支出合計	1,277,000	1,156,829	

(単位：円)

上記のとおりご報告いたします。令和6年6月8日 会計係 杉原佳容 峯島美緒 小林君江  
上記は会計監査の結果、間違いありません。令和6年6月8日 会計監査 野尻光子 和田靖子

## 令和6年度 事業計画

### 1 主な会議・会合

- ◇令和6年度 定期総会 令和6年5月18日(土)アルカディア市ヶ谷にて開催
- ◇役員会 年8回程度
- ◇幹事会 令和6年は開催せず、その費用をLINEの会員獲得のための通信費に使う
- ◇令和7年度 定期総会 令和7年5月17日(土)アルカディア市ヶ谷にて開催予定

### 2 主な事業 課題への対応<会員数の増>

- ◇「支部だより」29号は9月発行(予定)
- ◇「LINE公式アカウント」を「諏訪二葉高校同窓会(東京支部)」として運用、若い会員と出会うことを目的として運用する。
- ◇支部の収益に貢献できるような「大根坂ノベルティ」の企画と販売を検討する
- ◇渉外は、本部、また他校同窓会の動向が今後の活動に大きな影響があり情報収集の機会ととらえる

## 令和6年度 役員紹介

- ①出身中学 ②部活 ③諏訪で行きつけの店はどこ？

### ■支部長

松村佳代(太田) 31回生

- ①上諏訪中学 ②美術部
- ③諏訪市末広町の「太養パン」は対面の「太平堂」が実家だった私にとっては幼馴染の「透くんち」です。有名なサバサンドよりもバナナクリームパンやソーセイジパンが懐かしい味です。姉の住む下諏訪の駅前に行くたびに新店が賑わいを見せていて「チャボ」と並んで、「KenKen」などのピストロが増え地域の皆様がごいいきにしているようです。その並びの「本田食堂」は娘の好きな鹿肉が楽しめ、義兄は「毎食、ここのフライドポテトだけで夕飯はいい」と姉に言っていました。

### ■副支部長 兼 事務局

栗林理恵(伊藤) 31回生

- ①上諏訪中学 ②美術部
- ③行きつけというほどではないですが、上諏訪の小さいお蕎麦屋さん「とみや」は、むかし父が「あそこはうめえ」と教えてくれた思い出のあるお店です。当時、老夫婦がやっていて、用意した分がなくなると早々に店じまいしていました。今もたまに行こうとすると、すぐぐ並んでいるか、閉まったあとかです。また行きたいお店です。

### ■副支部長

木村早苗 40回生

- ①永明中学 ②茶道部
- ③東京でなかなか出会わないお気に入りの鰻屋さんとお蕎麦屋さんを楽しんでいます。帰省のたびに叔父叔母に誘われる下諏訪「うなぎ林屋」。鰻はもちろん美味しいのですが、鯉料理が絶品です。最近では、鯉こくと鯉のうま煮がお気に入りの1品です！茶色くて濃いつゆそばを求め、茅野「長寿更科」へ行きます。地元の山菜・野菜天ぷらが美味しく、夏シーズンは激混み覚悟で行きます。若い頃は苦手だった郷土料理が美味しいと感じる年齢になりました。

### ■会計

杉原佳容(河上) 37回生

- ①原中学 ②音楽部
- ③茅野にあった「アニバーサリーチロル」という洋菓子屋さんのものだと思います。[セロリマ



ン(当時の記憶のため違っていたら失礼)というパイ菓子を思い出しました。パイの中に白あんとセロリが入っている焼き菓子です。なかなかの大きさのセロリは存在感があり、当時の私は「セロリが甘いお菓子に入ってる！」と驚きながらもおいしくいただきました。今でもあるのでしょうか。調べたけれど見つけれませんでした。知っている方がいたら教えてほしいです。

小林君江 36回生

- ①原中学 ②ソフトボール部
- ③富士見町乙事の伯母の家で手打ちそばを出してもらい「このおそばはおいしい！」と子ども心に思った覚えがあります。その乙事地区の人たちが共同でやっているのが「そば処おつこと亭」で地元産のそば粉を使い、伝統の製法で打ったおそばが食べられます。あと、茅野駅前にある洋菓子店「アニバーサリーチロル」の「くるみかれん」というお菓子が好きでよくお土産に買います。職場の人にも好評でした。

峯島美緒(斎藤) 36回生

- ①永明中学 ②ソフトボール部
- ③茅野市にあるイタリアンレストラン「SPADA」(スパーダ)です。両親のお気に入りでお家から近く、帰ったときに必ず一緒にランチをするお店です。何を食べても美味しいですが、特にトマトソースは絶品です。コーヒー、紅茶がおかわりできるのもうれしいです。あと「丸安田中屋 本店」は、チーズケーキアントルメが有名ですが、ジェラートもおすすです。変わり種のフレーバーがあり楽しめます。



専務の土橋伸一郎さんは二葉の60回生

### ■会員運営係

宮坂さち子(宮坂) 38回生

- ①諏訪西中学 ②水泳部
- ③諏訪市中洲にある薪窯で焼くピザのお店、「サンタローザ」さん。定番のマルガリータやロマーナ、カルツオーネの上にたっぷりの野菜が載ったサンタレガーロ、和風味のネギしらす、ずっと食べていたくなるさ

つまいもクリームが入った「芋っちょえ」など、どのピザもおいしい上に、お店の方の笑顔に癒され、素敵な時間を過ごすことができるお店です♡

### ■会計監査

野尻光子(小林) 35回生

- ①長峰中学 ②天文・園芸部
- ③上諏訪駅から5分の大手にある和食の「都路本」です。二葉の同級生唐澤妙子さんが女将、ご主人が板前さんです。同級会はこのお店と決まっています。趣がある店内でちょっとリッチな和食がいただけます。創作料理も美味しくクリームチーズ入り茶碗蒸しはコクがありおすすめです。二葉つながりで昔の先生方もいらっしやるそうです。

和田靖子(二村) 29回生

- ①下諏訪中学 ②室内楽
- ③家じまいした下諏訪の実家が「telis」(テルティス)という北欧刺繍の工房&カフェになってます。コーヒーと焼菓子が絶品です。懐かしい味と言えば、「蓬饅頭」。祖母と山で蓬を摘んできて作ってもらいました。東京でも綺麗なような蓬があれば、茹でてカッターで粉碎、粉に混ぜて茹でれば、蓬香るスイーツの出来上がり。



テルティスのおふたり

### ■東京・南信同総連理事

内田志づ子(上條) 21回生

- ①岡谷北部中学 ②バスケット部
- ③原村(諏訪南インターから八ヶ岳ズームラインを上った左側)にある「Ristorante DANLO」(リストランテ ダンロ)です。二葉高校47回生の松本さんご夫婦が営むイタリアンレストランです。(お母さまは21回生)。森の中にある開放的でゆったりとした空間で原村の野菜や山菜、茸などを使った美味しいランチ、ディナーが楽しめます。基本はコース料理、予約制です。

## 令和7年度 定期総会 のお知らせ

**日付** 令和7年5月17日(土)  
午前10時～午後3時

**場所** アルカディア市ヶ谷  
市ヶ谷駅徒歩2分

**内容** ①総会 令和6年度活動・決算報告  
令和7年度活動・予算審議  
②講演 **鵜飼幸雄氏**  
「縄文王国と二葉生の発掘」  
③茶話会



うかいゆきお  
鵜飼幸雄氏

1954年茅野市生まれ。神長官守矢史料館館長、元尖石縄文考古館館長、諏訪考古学研究会会長。著書に「国宝土偶『縄文ビーナス』の誕生・棚畑遺跡」（新泉社、2010年）、「八ヶ岳西麓の縄文文化-二つの国宝土偶と黒曜石の里-」（敬文舎、2022年）など。八ヶ岳山麓の縄文文化、諏訪信仰発祥の歴史に関心がある。奥様と娘さん二人は諏訪二葉高校の同窓生。

## 令和6年度 幹事会

今年度幹事会は開催せず、費用をLINEの会員獲得のための通信費に使わせていただきたいと思います。

### 令和6年度 東京支部代表幹事名簿 2024.5.18現在

回生	氏名										
16	帆足 絹子	22	土屋 郁子	27	堀田みち子	32	伊坂 優子	37	杉原 佳容	42	尾崎 恵美
17	竹村さえ子	23	石上 美保	28	齊藤 玲子	33	小野 節美	38	宮坂さち子	43	後藤みどり
18	中坪 清子	24	志賀 貴江	29	内田真理子	34	池上 敦子	39	大庭 節子	44	中村あゆみ
19	古田 保子	25	村松多寿子	30	谷口 文	35	野尻 光子	40	木村 早苗		
21	湯澤 真子	26	岡田 淳子	31	松木きよみ	36	峯島 美緒	41	津田 恵美		

### 諏訪二葉高等学校東京支部サイト

[http://suwafutaba.org/tokyo\\_branch/index.html](http://suwafutaba.org/tokyo_branch/index.html)

パソコンなど、大きい画面での閲覧をおすすめします。

### 東京支部のLINE公式アドレス

ぜひご登録ください。



「トル」の販売も開始しました。今後も活発に情報を配信してまいりますので、応援よろしくお願ひします。(木村早苗)

## 編集 後記

■茅野市出身の藤森照信先生の講演会は、馴染み深い地元の先生の作品

建築物に大変興味深く拝聴し、会場の雰囲気も熱気に包まれ大盛況で終え、同郷の方のご活躍を耳にすると、誇り高く嬉しいことだと実感しました。LINE公式アカウントの配信をはじめ、東京支部オリジナル「大根坂サーモポトル」の販売も開始しました。今後も活発に情報を配信してまいりますので、応援よろしくお願ひします。(木村早苗)

## ふるさと 諏訪市からのご案内

# ふるさと納税で諏訪市の特産品を選んでみませんか？

諏訪市では、1万円以上のご寄附をいただいた市外在住の方に、感謝の気持ちとして寄附金額に応じた諏訪市の特産品等の「お礼の品」をお贈りしています。諏訪のソウルフードである「テンホウのぎょうぎ」、さわやかでとろける舌触りが人気の「丸安田中屋のチーズケーキ」、諏訪五蔵の「日本酒」、丸高蔵や竹屋の「味噌」などの“ふるさとの味”を楽しめる商品もございます。

### ■ 諏訪市の代表的なお礼の品



丸安田中屋のチーズケーキ



諏訪五蔵の「日本酒」

ほかにも、“東洋のスイス”と形容される諏訪地域の精密加工技術を象徴する商品や、地元の農産物などもラインナップしています。是非一度ご覧ください。

お問い合わせ：諏訪市役所 地域戦略・男女共同参画課  
〒392-8511 諏訪市高島1-22-30 TEL:(代表)0266-52-4141 内線285・287  
E-Mail: furusato@city.suwa.lg.jp

ふるさと納税募集  
サイトはこちらから

